

社会司牧通信



202602

★印はカトリック関連

平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスクでは、教会が社会へ発信しているメッセージや社会の中で活動する団体の情報をお知らせします。社会へのチャレンジの第一歩として、積極的にご参加ください。



★教皇レオ十四世、「聖フランシスコ年」を公布 | カトリック中央協議会
【期間】2026年1月10日～2027年1月10日

★核兵器のない世界のためのパートナーシップ（PWNW）からの声明
2026/1/22 | 核兵器のない世界のためのパートナーシップ

核兵器禁止条約 発効5周年を祝して、アメリカ・サンタフェ教区・シアトル教区・日本の広島教区・長崎教区の司教団からのメッセージです。



★カリタス広島 ホームページ&リーフレットが出来ました！
教区報と一緒に配布してます。
新生「カリタス広島」よろしくお願いします！
カリタス広島 - カトリック広島司教区

★能登地震災害支援キャンペーン -のとのとに- Caritas Japan

発災から2年が経ちました。のとは、まだまだボランティアを募集されています。
引き続き、のとを支えていきましょう！
買って応援！企画も載っています。小教区で企画してみませんか？



★平和アピール 1981（岡山鳥取地区は11月に終了しています。）

・広島地区 2月22日(日)・25日(水)

・山口鳥根地区 2月14日(土) 10:30～15:30

Youtube 配信あり

場所：カトリック細江教会

過去をふり返ることは将来に対する責任を担うことです
聖ヨハネ・パウロ2世

平和アピール1981

バック・トゥ・ザ・フューチャー
～将来を背にして過去をふり返る～

かわもと たかし
講師：川本 隆史さん
『広島教区百年史』編集委員会 委員長
2026年

参加費 無料
2月22日(日)
11:00 ▶ 12:30
会場 カトリック会館1F 多目的ホール
〒730-0016 広島市中区梅町4丁目4-2

講師プロフィール
1951年12月8日 広島市西区己斐に生まれる。
1965年12月24日 広島学院聖堂において受洗（名：マリオ）。
1965年・69年3月 第二回・第三回中級プロックカトリック高校生大会に参加。
1970年4月 東京大学教養学部文科一類入学。ザビエル学生会（東京都目黒区駒場）の先輩の誘いに応じ、学生時代の4年間は東大カトリック研究会の活動に打ち込んだ。
1980年4月～2022年3月 鹿児島女子大学、東北大学、東京大学、国際基督教大学に連続4年間専攻。ジョン・ローレンスの『正義』とキャロル・ベリガン氏の『もうひとつの声』から強い影響を受け、『正義』と『ケア』を軸に集めた社会のあり方を追究し続けてきた。
2023年4月より己斐の生家でイタリア生活を始める。中学・高校時代に通った難波町教会の信徒として社会復帰する（「放浪老人の帰還」！）。

聖ヨハネ・パウロ2世 来広記念ミサ
日時：2月25日(水) 10:00～ 場所：梅町教会 地下聖堂
司式：瀬井英昭 神父（梅町教会 主任司祭）
◆ミサ後 被導証言 加藤文子さん（祇園教会 信徒）
2019年11月24日平和の集いで教皇フランシスコと言葉を交わす
お問合せ
主催：カトリック広島地区 正義と平和推進チーム
peace19810225@yahoo.co.jp



↑
配信
QR
コード

平和アピール1981
—聖ヨハネ・パウロ2世 教皇来日記念平和行事—

難民シェルターの現場から
～ともに歩む社会を目指して～

日時 2026年2月14日(土) 10:30～15:30
場所 カトリック細江教会（下関市細江町1丁目9-15）
講師 アルベニャンセンター
松浦 由佳子 さん

講師経歴 大学卒業後、国際協力機構（JICA）で約11年間、海外の貧困問題、開発支援に関わる。駐在先のアフガニスタンでの出会いから、日本国内の難民問題に関心をもち、関わり始める。難民支援協会、留学、開発コンサルタント等を経て、2022年4月にNPO法人アルベニャンセンターに入職、定住支援を担う。

タイムスケジュール
10:00 ～受付
10:15 ～平和アピール開演
10:30 ～開会
10:35 ～講話
12:00 ～昼食・休憩
13:00 ～分かれ合い
14:15 ～余会合・ミサ
15:30 ～閉会

お願ひ
※昼食は各自で準備下さい。
※駐車台数に限りがございますので、できるだけ乗り合わせでお越し下さい。
※参加人数を各教会でとりまとめて、2月4日(水)までに、下記の連絡先まで、メールにてお知らせください。
Eメール連絡先 shippo-tarezo115@ezweb.ne.jp 事務局 大曲信介
主催 山口鳥根カトリック正義と平和協議会



『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(9)「わたしたち」

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)

「待降節の黙想会に来てくれた神父さんが教えてくれたんだけど、主の祈りでさ、わたしたちの罪をおゆるしてください、っていう、その。“わたしたち”っていうのが大切なんだって。英語で言うと Our Father っていうから、わたしたちのお父さんへ、って呼びかけているんだよね。あの時から、“わたしたち”っていうのが私のテーマになっているんだよね。」そうメグミがわかちあってくれた。すると、シンコも言う。「そうか、最近の私の祈りと似ているなあ。わたしは、テゼっていう超教派（キリスト教のさまざまな教派の枠を超えた集い）の祈りの集まりの中で“わたしたちを一つにしてください”って祈ったのが心に残って、それを祈ってるんだ。」

月に一度、マコと青年仲間の数名で、瀬川神父の同伴のもと、わかちあいをしている。瀬川神父の修道会の霊性を土台にしている信徒のグループの青年バージョンだ。マコは、仲間たちのわかちあいが一つのテーマで結ばれていることを感じて、その不思議さに感動していた。

瀬川神父が言った。「みんなのわかちあいを聞いていたらさ、一つのイメージを思い出したよ。というか、僕が描いた絵なんだけどさ。前はマコにも僕の代わりに会議で行ってもらったんだけど、フィリピンのミンダナオで、うちの修道会のアイルランド人の神父さんが先住民のための教育施設とエコロジーセンターをしているんだけど、そこにアジアの仲間たちで集まって、僕らがこれから向かっていくビジョンをみんなで語りあおうということになったんだ。その時にシノドスの文書が一つの祈りの材料になったんだけど、そこで言われてるのはさ、関わりを大切にするという点を大切にすることで、シノダリティとエコロジーは共通していて、お互いを支えあうということだったんだ。そして、仲間たちそれぞれの描くビジョンが一致していたんだよね。それを僕が任されて、最終的に絵にしてみたんだ。」

そう言って、瀬川神父が絵を見せてくれた。ああ、神父さんも同じ想いを共有していたのだ、と実際にその次の会議に行かせてもらって体験したマコは思った。その絵は、フランシスコ教皇が流した川が流れている。シノダリティとエコロジーという川。どんなにこの世界に暗闇が広がっても、でも確かにこの川が流れているのを感じる。大地がこの川によって潤され、豊かな土壌となる。そこに根を張る、私たち一人ひとりの木。でもお互いが関わりをもって、つながっていて、それは森を形成しているのだ。その森は美しいキャノピー（森のブロッコリーのような屋根）を描いているのだ。この森という共同体は、一つの共同体となって、世界と人々の癒しという虹に向かって歩いていく。

瀬川神父に同伴してもらいながら、わかちあいが続けてきて、この青年たちの仲間が“わたしたち”になってきていること、一つの舟にのって旅をしていることを感じる。瀬川神父さんが、エコロジーとシノダリティの川を流してくれることで私たちはそこから養分をもらっている。確かにこの川が流れていることを、マコも広島教区の宣教ひろばに参加して、霊における会話を体験した時から感じていた。教皇フランシスコが送った川の流れがここまで届いている、と。「わたしも渇いた大地、癒しを待っている人たちにこの川を流していこう。」マコはそう思ったのだった（つづく）



★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日（祝日を除く）9:00～16:00 電話番号 082-555-1127

メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net